

## 自己評価報告書(最終報告)

報告者

社会系コース／伊藤 直之

## ■平成23年度の目標に対する自己点検・評価

## Ⅰ. 学長の定める重点目標

## Ⅰ-1. 教育大学教員としての授業実践

本学の目的は、豊かな教養と教育実践力をもった教員を養成し、学校現場に送り出すことにある。このことを実現するには、教科専門・教科教育・教職専門等の各分野の授業が、学校現場の実践と関連性が保たれていることが必要である。あなたは、教員養成大学の教員として、本年度はどのような授業計画を立て実現しようとするのか、これまでの取り組み状況を総括し、具体的に示して欲しい。

## 1. 目標・計画

## ①授業実践に寄与するアクティビティーの導入

社会科教育に関する講義では、これまでではどちらかというと、理論的な背景の解説に重きを置いてきたが、少人数の講義では、実践的な側面を加味して、授業案のデッサン作成や教材開発の基礎作業などの過度の時間を要しないアクティビティーを取り入れたいと考えている。

## ②学部生と現職院生の交流機会の設定

現職派遣の大学院生(教職大学院を含む)に希望を募り、時間の許す範囲内で、学部生対象の社会科教育に関する講義に参加を依頼し、教育現場の実情や苦勞、実践上の工夫や改革的取り組みについて話していただく。それにより、実践との関連性が高まるだけでなく、学部生と現職院生との相互交流が期待できる。

## 2. 点検・評価

## ①授業実践に寄与するアクティビティーの導入

社会科教育に関する少人数の講義では、実践的な側面を加味して、教科書の内容構成分析表や論文読解を支援するワークシートなどを活用して、過度の時間を要しないアクティビティーを取り入れた。それに加えて、「社会科・地理歴史科教材論」では、鳴門塩業株式会社に依頼して、訪問調査を実施し、調査内容に基づく地理教科書の開発を課した。これらの活動を通して、社会科教師に求められる地域調査の企画・立案・実行に関わる力量形成、さらには実地調査を授業に活用できる実践力を育成することができた。

## ②学部生と現職院生の交流機会の設定

学部1年生対象の「初等社会科教育論A」に、本学教職大学院で学ぶ現職院生を招き、教育現場の実情や苦勞、社会科授業実践上の工夫として、ICTやゲームの導入などの改革的取り組みについて話していただくことができた。これらの活動を通して、学部1年生と現職院生との交流機会が生まれるとともに、現職院生からは自身の教育現場における経験や大学院における学びを反省する良い機会となったとの感想を頂いた。

## Ⅱ. 分野別

## Ⅱ-1. 教育・学生生活支援

## 1. 目標・計画

①第3学年のクラス担当教員として、学生との個人・集団面談を実施し、引き続き生活の実情や進路希望等の把握に努めるほか、主免教育実習の取り組みを可能な限り参観し、叱咤激励したい。

②主免教育実習の期間中、大学において教材研究や指導案作成の相談を受け付ける夜間窓口を開設する。

③卒業論文および修士論文指導において、適確且つきめ細やかなアドバイスを心がける。

## 2. 点検・評価

- ①第3学年のクラス担当教員として、学生との懇談会を延べ3回実施した。その結果、学生の生活の実情や進路希望等について、より正確な把握ができた。
- ②主免教育実習の期間中、大学において教材研究や指導案作成の相談を受け付ける夜間窓口を開設した。
- ③卒業論文および修士論文指導において、適確且つきめ細やかなアドバイスを心がけた。
- ④就職支援行事における個人面接、模擬授業、集団討論の指導を行った。
- ⑤硬式野球部顧問への就任を受諾した。

## Ⅱ-2. 研究

### 1. 目標・計画

- ①科学研究費補助金に基づく、イギリスをはじめとする諸外国の地理教育およびシティズンシップと教科の関係性についての調査。
- ②新学習指導要領にもとづく小学校社会科、中学校社会科地理的分野の授業開発と提言。
- ③著書および論文業績の積み増しを図る。

## 2. 点検・評価

- ①科学研究費補助金に基づき、中国、韓国、イギリス、アメリカにおける社会認識教育およびシティズンシップ育成と教科の関係性についての調査を実施した。
- ②新学習指導要領にもとづく中学校社会科地理的分野の授業開発と提言を著書(分担執筆)を通して行った。
- ③全国学会における発表内容を基礎にして論文投稿を行い、採択決定となった。

## Ⅱ-3. 大学運営

### 1. 目標・計画

- ①科学研究費補助金をはじめとする外部資金の獲得
- ②インターンシップ協力校への挨拶回り
- ③兼業先における本学大学院のPR
- ④教員免許状更新講習の開設

## 2. 点検・評価

- ①科学研究費補助金基盤研究(B)の研究分担者として外部資金を獲得した。
- ②実地教育専門部会委員として、インターンシップ協力校への挨拶回りを実施した。
- ③兼業先において本学大学院のPRを実施し、希望者にパンフレットや募集要項を配布した。
- ④教員免許状更新講習を開設し、実施した。

## Ⅱ-4. 附属学校・社会との連携, 国際交流等

### 1. 目標・計画

- ①附属小学校・中学校の研究大会への指導助言。(附属学校)
- ②徳島県小学校教育研究会社会部会・中学校教育研究会社会部会への協力。(社会連携)
- ③ロンドン大学の地理教育研究者との関係強化。平成25年度招聘の準備。(国際交流)

### 2. 点検・評価

なお、本年度中に以下の依頼を受け、受諾した。

- ①附属小学校の研究大会における2012年度の指導助言を担当することとなった。
- ②徳島県立総合教育センターからの高等学校地理歴史科研修講座について依頼を受けた。
- ③ロンドン大学の地理教育研究者の招聘の準備。
- ④第5回中日教師教育学術研究集会への発表予定
- ⑤中学校社会科教育研究会の九州大会における地理的分野の指導助言者

## Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)

東京における諸業務を遂行することができた。